

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和6年度技術情報第18号（果樹カメムシ類）について（送付）

下記のとおり果樹カメムシ類について取りまとめましたので、周知及びご指導を
よろしく願います。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujoshou/index.html>）にも掲載しています。



令和6年度技術情報第18号

本年は全国的に果樹カメムシ類の発生が多く、本県でも4月以降、ツヤアオカメムシが予察灯
で多く誘殺されています。今後の発生に注意し、果樹園への飛来を認めたら防除を行いましょう。

1 対象病害虫 果樹カメムシ類（ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ）

2 対象作物 果樹全般

3 情報の内容

(1) 発生地域 県本土

(2) 発生量 ツヤアオカメムシ 多
チャバネアオカメムシ 並

4 発生状況及び情報の根拠

(1) 果樹カメムシ類の予察灯での誘殺虫数は、出水市美原町ではツヤアオカメムシの誘殺虫数
が4月から増減を繰り返しながら平年より多く推移している。一方、チャバネアオカメムシ
は平年並みである（表1）。

(2) 8月14日に採取したヒノキ球果の口針鞘数（カメムシ類の吸汁痕数）は増加しており、ヒノキ
球果（餌植物）の劣化が進んでいる。特に、出水①では平均で19.2本/果（平年10.0本/果）、出
水市②では19.0本/果と、カメムシ類が山林のヒノキから離脱し、移動する目安の25本/果に
近づいている（表2）。

5 防除上注意すべき事項

(1) ヒノキ球果の劣化や台風等により球果が落果すると、成虫が果樹園へ飛来する場合がある
ので注意する。

(2) 果樹園への飛来はほ場により異なり、園内でも偏りがあるので注意深く見回
り、飛来を認めたら直ちに防除する。

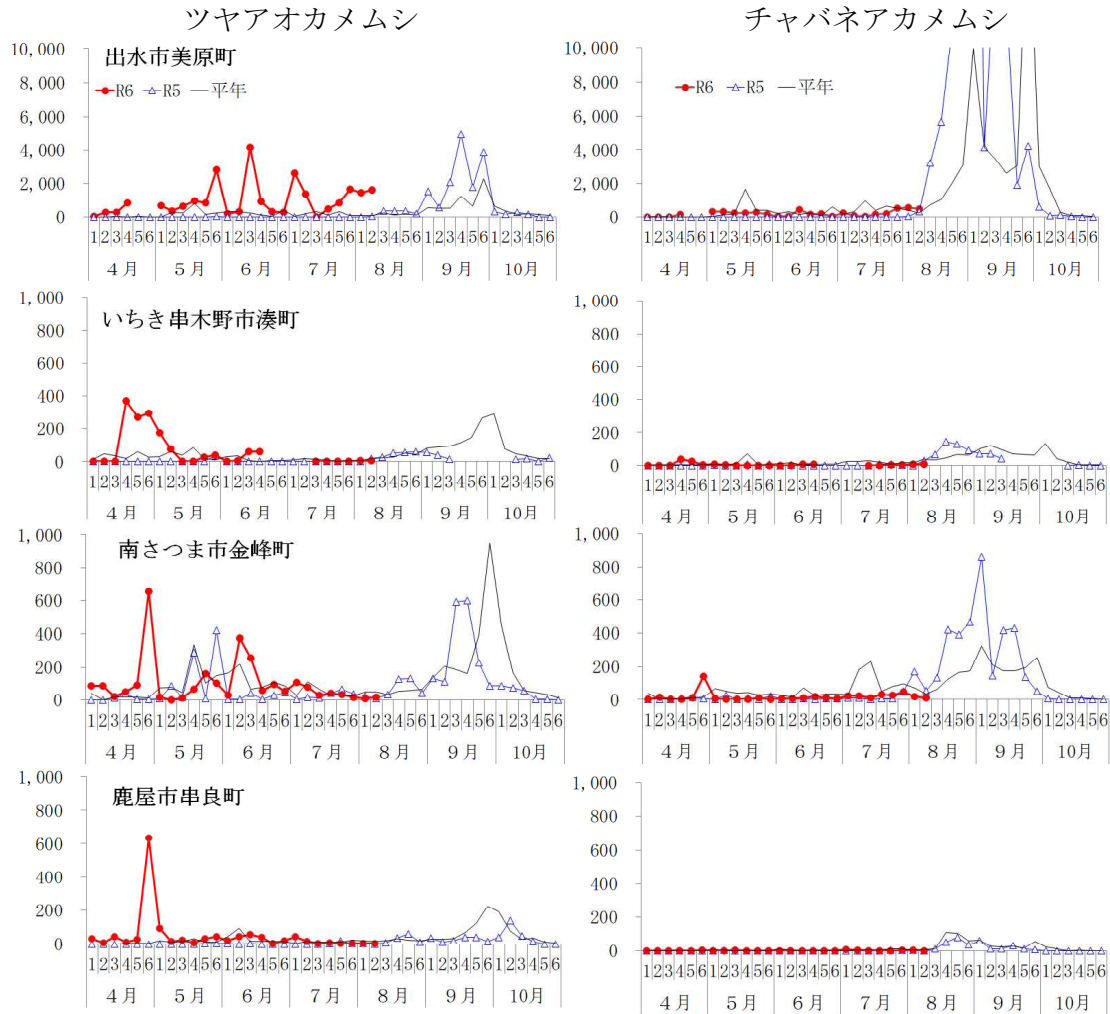
(3) 防除薬剤は、比較的残効の長いネオニコチノイド系薬剤または合成ピレスロ
イド系薬剤を選択する。合成ピレスロイド系薬剤は、ハダニ類が急激に増加す
ることがあるので、散布後はハダニ類の発生に注意する。

(4) 防除にあたっては、防除薬剤の使用回数や使用時期を遵守し、薬剤の飛散に十分注意する。



適用農薬一覧

5 参考データ



注1) 平年：過去10年間の平均値。捕虫方法：南さつま市金峰町100W水銀灯、鹿屋市 捕虫用蛍光灯と白色蛍光灯（20W）を併設、他は40W捕虫灯
 注2) 出水市美原町の4月5・6半期、いちき串木野市湊町の6月5・6半期と7月1・2半期は欠損

図1 予察灯での果樹カメムシ類の誘殺虫数の推移

表1 ヒノキ球果の口針鞘数（カメムシ類の吸汁痕数）（単位：本/果）

調査地点	調査月日			
	7月1～4日	7月19日	8月1～2日	8月14日
南さつま市	0.7	1.7	6.0	7.2
いちき串木野市	0.6	4.7	9.0	9.4
阿久根市	0.5	2.8	4.6	13.2
出水市①	0.5	5.5	16.8	19.2
出水市②	3.1	7.4	14.5	19.0
さつま町	2.4	3.3	6.8	17.5
霧島市	0.3	6.1	6.5	11.2
曾於市	0.0	0.3	4.4	7.7
本年	1.0	4.0	8.5	13.0
平年	0.4	2.5	6.3	10.0

注1) 平年は、2014～2023年の10年間の平均値

注2) カメムシがヒノキ球果から離脱する目安は、口針鞘数25本/果